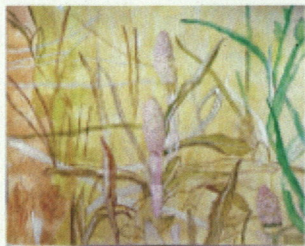


障害のある人の県庁アートギャラリー出品作品(2020年4月)

くわのみどりの家 (絵画教室)



小林正男 「土筆の春」 水彩

身近な春の便りを告げる土筆を写生しました。いつもは、風景画が多く、遠景、中景、近景の表現が素晴らしく、斜面や平地の表現力が抜群です。



谷 邦彦 「青年」 水彩

水彩画ですが、油彩画の迫力です。10号サイズの絵をひたすら面相筆でコツコツと彩色して仕上げます。未来を見つめる青年らしいポーズにひかれました。



山本 剛「カンガルーの親子」 水彩

浮世絵の美人画を模写するときは、着物の柄も細密画のように丹念に描き込み仕上げます。今回は、カンガルーの親子ですが野生の動物が持つ優しさの中にも母親の視線に強い愛情を感じます。



横川浩美「菜の花とそよ風」 水彩

眺めている内に蕾が開花、そしてみどりのさやがどんどん膨らんで、春はあっという間に季節が移ろいます。柔らかな淡彩に仕上げる工夫を楽しみながら花の向きや、みどりの風を感じられるように彩色しました。



滝 勝吉「作品A」 鉛筆画

いろんな写真集や、絵画の本をみながら、ひらめいたインスピレーションで自分の世界を作り出します。今回は、鉛筆画ですが、マジックペンで紙面いっぱいモチーフがずらりと並ぶ作品です。